

海外安全対策情報 2017年7月～9月

在スロベニア日本国大使館

1. 社会・治安情勢

(1) 移民・難民

警察の統計によると、8月末現在での2017年中のシェンゲン圏外からの不法入国者数は、1,233人であり、前年同期の523人を大幅に上回った。国籍別上位は、アフガニスタン(487人)、コソボ(103人)、トルコ(98人)となっている。

警察が認知したシェンゲン圏内からの不法入国者(必要な査証等を所持せず入国した者)の数は、616人であり、前年同期の486人を上回った。このうち、イタリアからの不法入国者数が、前年の211人から420人に増加した。

(2) 一般犯罪・事件

報道によれば、第二次大戦中の250キロ爆弾の不発弾処理(7月、マリボル近郊)、軍用ライフル等を所持していたコレクターの検挙(7月、ノボ・メスト)、店舗対象の連続強盗犯の検挙(8月、コペル近郊)、インターネットを利用した拳銃密売事件の検挙(9月、ノボ・メスト近郊)や薬物事件(大麻栽培、コカイン等密売)の検挙などが行われた。

(3) その他

スロベニア外務省は、海外渡航するスロベニア人向けにSMSによる安全情報の配信サービスを開始した(9月)。警察等の取調を録音録画することで弁護士の立会いがなくとも証拠能力を認めるなどの刑事手続法の改正案は、下院を通過したが、上院で拒否された(9月)。

2. 邦人被害事案

2017年上半期中、邦人による警察への被害届出件数は15件(前年同期比+8件)であり、全て窃盗被害であった。昨年1年間の届出件数が14件であり、本年は、上半期だけで昨年を上回り、邦人被害が増加している。

態様としては、邦人観光客が、リュブリャナ中心部等観光地でカバン等から貴重品を盗まれるスリ被害が多い。また、スリのほか、ポストイナ鍾乳洞駐車場での車上ねらい被害も報告されている。

3. 誘拐・脅迫事件発生状況

邦人の被害報告はない。

4. 日本企業の安全に関わる諸問題

当国の対日感情は全般的に良好であり、問題の報告はない。

以上